KOYU Times 日本歯科大学校友会
2014 July | no.6
発行　日本歯科大学校友会　〒102-8159 東京都千代田区富士見 1-9-20　TEL.03-3261-8971　FAX.03-3264-8745　http://www.koyu-ndu.gr.jp/

校友会主催 女性歯科医師の集い2014 開催！

女性会員の親睦と学術向上を目的に毎年「女性歯科医師の集い」が開催され、今年も九段の地に女性卒業生が華やかに集いました。校友会主催「女性歯科医師の集い」は４回目を迎え、女性卒業生の楽しみの一つとなっています。今年度からは男性卒業生も参加可能となりました。学生の皆様の参加も年々増えてきているようです。来年はお友達を誘って参加してみませんか。

アンサンブル同好会による
アフタヌーンコンサート

平成26年4月20日（日）「女性歯科医師の集い2014」が全国から、100名を超える女性卒業生が集まり、華やかに開催されました。

講演会［Ⅰ］は日本歯科審美学会理事、認定医・アメリカ審美歯科学会（ASDA）認定医で、国内外でも活躍されている東京都開業の椿智之先生（77回）の「ホワイトニング最前線～アメリカの最新審美治療～」でした。ホームホワイトニングとオフィスホワイトニングでの注意点や世界的な潮流である“Minimal Intervention”を受けて、歯を削らずに修復する審美治療のお話に、参加された先生方は熱心に聴き入っていました。講演［Ⅱ］は公益社団法人日本歯科医師会唯一の女性役員で内閣府・男女共同参画推進連携会議議員等多くの役職を兼任され、活躍されている倉治ななえ先生（68回）「私の履歴書～女性歯科医師として生きる～」で、私たち女性歯科医師の悩みを解決し、明日からの活動の励みとなる講演でした。

椿　智之先生

倉治ななえ先生

懇親会では、本学の学生、平野瑞穂さん（5年）・田中理紗さん（3年）・高橋優貴乃さん（短大3年）・副田由紀さん（短大3年）・赤羽由紀子さん（2年）・杉村美侑さん（2年）・杉下奈里さん（2年）から構成されているアンサンブル同好会と、桐朋学園大学音楽部を卒業されて、現在リヨン国立高等音楽学院に留学されている澤本真由香さんのバイオリン演奏の二部構成で「アフタヌーンコンサート」が開催されました。会場のあちらこちらで話の輪が咲き、先生方は和やかな昼下がりの時間を楽しまれていました。

大学を卒業してからも、母校と繋がっていると再認識させていただいた１日でした。校友会はこのような素晴らしい機会をたくさん企画し開催されています。学生の皆様もお出かけくださいね！！

校友会からのご挨拶

西村正美　副会長（78回）

学生の皆さん、進級、入学おめでとうございます。歯科医師に向かって歩み出している皆さんに心からエールを送ります。

歯科医師としての仕事はう蝕の治療、歯周病の治療などの時代から今では口の健康が全身の健康に繋がり、健康寿命の延伸に大きく関わるようになってきました。歯がたくさん残っている人は長生きするとか、認知症になりにくいということ、歯周病は心筋梗塞、脳卒中、糖尿病など生活習慣病を悪化させることも明らかになってきました。

歯科医師は人々が健康で質の高い生活を営む上で極めて重要な役割を果たす、ということを学生の皆さん！　ぜひ覚えてしっかり学んでください。

私は大学を卒業後、平成8年に都内で開業した時、平成13年に娘を38歳で出産した時、子育てと仕事の両立に悩んでいた時、また、平成22年に国政選挙に出た時など、どの時期にも校友会の先輩、後輩に助けてもらって困難を乗り越え、喜びを分かち合い今現在に至っています。伝統と創造に満ちた日本歯科大学校友会の絆は、どこの大学にも誇れる深い繋がりをもって結ばれています。

皆さんも校友の一員として参加いただき、たくさんの若いパワーと意見、要望をくださることを強く願っています。

校友会・歯学会入会オリエンテーション 開催

生命歯学部では校友会・歯学会入会オリエンテーションが、登院を控えた５年生を対象に、附属病院牛込ホールにて平成26年3月27日(木)に開催されました。出席された5年生の皆様は、配布されたKOYU Times、校友会・歯学会会報を手に取りながら、熱心に校友会・歯学会の先生方の説明に耳を傾けていました。6年間の学生時代を見守ってきた校友会は、卒業後も歯科医師として巣立つ皆様をサポートしていきます。6年間お世話になった大学の先生方も、歯学会という歯科医学研究のプロ軍団として、側にいてくれます。本学の卒業生は校友会を通して母校と繋がっているのです。全学年の皆様、卒業の晴れの日を迎えられましたら、校友会・歯学会入会歓迎会でお会いしましょう!!

REPORT

校友会・歯学会 入会歓迎会

●生命歯学部　3月12日(水) ホテルメトロポリタン・エドモント

「卒業おめでとう」という激励をいただいて

生命歯学部
川﨑正宗(103回)

私は入学当初から学生会に入り、学校行事などの運営に携わっておりました。本格的に校友会を認識したのは３年生の時、校友会の先生方から学生会と校友会の合同特別講義をやらないかと、お話しをいただいたのが始まりです。毎回の話し合いを重ねるにつれ最初の緊張も解れ、より良い講義を創り上げることに専念できた事を今でも覚えています。

この度、晴れて卒業でき入会歓迎会の会場で先生方から、温かく「卒業おめでとう！」と激励をしていただきました。最近では校友会の入会者が少ないと言われていますが、同窓という枠で私達を仲間として受け入れてくださる先生方と少しでもお近付きになれたことを改めて誇りに思います。

中原 泉 校友会会頭との記念撮影。つい緊張!

今後とも校友会・学生会特別講義が長く続き、母校との繋がりがさらに深く根強いものとなることを願っております。

●新潟生命歯学部　3月14日(金) レストランスクエア

校友会歯学会入会歓迎会に参加させていただいて…

新潟生命歯学部
橋本祥吾(103回)

校友会・歯学会入会歓迎会が、日本歯科大学新潟生命歯学部卒業証書授与式終了後に開催されました。保護者、学部および病院の先生方もお招きして、華やかな雰囲気の中、用意していただいたお酒や料理を囲みながら学生時代のいろいろな思い出話をすることができました。

私の第5・6学年のころ、いろいろな力不足を痛感した時に的確なアドバイスをくださり、些細な疑問でも丁寧に受け止めてくださったのは、校友会員である部活のOBの先生、大学の先生方でした。貴重な時間を後輩のために費やしてくださる味方の存在はとても心強く、励みになりました。そんな先輩方と、また校友会でご一緒できることに嬉しく思っています。同時に校友会を通じ、後輩たちにも指導できるような人間に、私もなれるよう努力したいと思います。

校友会表彰に微笑む、阿部侑加さん。

校友君インフォメーション

学生との懇親会のお知らせ

石川県校友会主催

日時：平成26年8月9日(土)
19時から
場所：金沢　石亭
申込先：河崎　滋(79回)
TEL 076-252-1413
FAX 076-251-6224
柳下治男(87回)
TEL 076-248-1186
FAX 076-248-6983

香川県校友会主催

日時：平成26年8月9日(土)
19時から
場所：町屋ダイニング 三ツ矢堂
鍛冶屋町店
申込先：竹内敏彦(72回)
TEL 0877-49-6666
FAX 同上

熊本県校友会主催

日時：平成26年8月13日(水)
19時から
場所：熊本ホテルキャッスル
申込先：三苫　司(65回)
TEL 096-324-7287
FAX 同上

広島県校友会主催

日時：平成26年8月16日(土)
18時30分から
場所：ホテルグランヴィア広島
申込先：椿田直也(67回)
TEL 082-274-1616
FAX 082-274-1618

学生の皆様は会費が無料ですので、奮ってご参加ください。

REPORT

学生会主催 新入生歓迎会

平成26年4月12日(土)生命歯学部学生会主催新入生歓迎会がメモリアルホールにて、4月18日(金)新潟生命歯学部学生会主催新入生歓迎会がホテル日航新潟において、両短期大学の新入生も参加され盛大に開催されました。会を盛り上げる学生会の頼もしい姿に校友会の未来を感じた一日でした。

生命歯学部

新潟生命歯学部

部活動を通した交流の入り口として

学生会主催の新入生歓迎会が開催されました。多くの新入生の皆さんが参加し、部活紹介や立食パーティー、ビンゴ大会など、様々な楽しいイベントを催し大盛況の内に終わりました。

歓迎会の一番の目的は、皆さんに本学の部活や研究会、同好会を知ってもらうことです。これらに所属している学生は、歯学体や発表会などに向けて日々活動しています。その中で、同級生や先輩、後輩と交流を深めてお互いを高め合い、医療人としても大切である信頼関係を築くことができるのだと思います。

ちなみに私は現在、柔道部と少林寺拳法部に所属していて、大会や歯学体で良い成績を修めることができるよう、信頼し尊敬できる仲間とともに、目標に向かって日々練習に勤しんでいます。新入生の皆さんにも、今回の歓迎会を通してぜひ自分に合った部活動に参加してもらい、これからの大学生活がより有意義で充実したものとなるよう、心より願っています。

生命歯学部学生会副会長　稲田　諒

笑顔の絶えない歓迎会でした

平成26年度、日本歯科大学新潟生命歯学部・新潟短期大学新入生歓迎会が開催されました。今年度は学部生70人、短期大学生57人が入学し、先生方や在校生を含めますと出席者250人を超える大規模な会となりました。入学式から一週間、緊張していた新入生も同級生や先輩との歓談を楽しんでいた様子でした。和気藹々とした雰囲気の中、大変盛り上がったビンゴ大会などもあり、終始笑顔の絶えない歓迎会となりました。新入生同士の交流も深められ、新たな環境への不安を取り除けたかと思います。

新潟生命歯学部学生委員会委員長　久代洋貴

こうゆう先輩 第1回

～卒後、大学院を選んだ ver.～

あらゆる分野のプロフェッショナルに囲まれた環境

新潟生命歯学部
先端研究センター再生医療学
口腔外科学講座併任
川上 未有希 (97回)

本学新潟生命歯学部を卒業して早くも7年目を迎えました。現在、新潟生命歯学部の先端研究センター再生医療学および口腔外科学講座に所属し、時々新潟生命歯学部の皆さんの勉学の場にも出現しつつ…日々臨床と研究に携わっています。

――そもそも、なぜ私は今、本学に残っているのか――振り返ってみると、きっかけは臨床研修歯科医師として本学新潟病院での口腔外科研修にありました。口腔外科病棟研修、そしてアドバンスコース(自身の興味がある分野を選択し、より専門的な知識や技術を習得できるカリキュラム)での口腔外科研修を通じ、全身と口腔の関連性を深く学びました。全身状態も口腔内の状態もさまざまな病態を有している患者様を目の前にして、“口腔内”だけに意識が取られがちで“人間の体の一部”としての口腔内という認識の不足、全身トータル的な(例えば、既往歴と口腔内、どちらが重症でどちらの治療を優先すべきなのか？)診断力不足を痛感したことをはっきりと覚えています。全身管理を含めた包括的歯科治療が行え、より高い専門性を身につけた歯科医師になりたい、私が大学院へ進学したキメテはその思いでした。

大学院へ進学してからは、日々、臨床現場で上の先生方にご指導頂きながら、診断力や手技の習得を重ねていきました。また、大学院に進学したことで、研究という分野にも出会うことができました。勉強大嫌いな私が研究？　と笑っちゃうような気を抑えつつも取り組んでみると、最先端の知見に触れることで予想外にのめり込み、今では、困っている患者様に還元できるような新しい治療法の開発実現まであと一歩というところにまで至っています。

大学に残ったメリットとして、臨床と研究の両立ができること、学生の皆さんと触れ合うことで初心を忘れずにいられること、そして何より、ありとあらゆる分野のプロフェッショナルが近くにいることで、歯科医学分野の奥深さと幅広さを常に感じることができ、視野が狭まることなく、多くの角度から物事を考える力が常に養われていることです。

もっともっとお話したいことばかりですが、続きは学内で会った時にすることとして…皆さんが卒直後の近い将来について、大学院を選んだver.について考えられる機会になれば幸いです。

神奈川県校友会新年会に参加させていただいて

生命歯学部
4年
内藤彰美

平成26年2月1日（土）、ローズホテル横浜にて神奈川県校友会新年会が開催されました。今年は在校生５名が参加し、県校友会の先生方123名が参加されました。藤井達士県校友会会長のご挨拶から始まり、校友会本部からは、倉治康男専務理事にご挨拶をいただきました。

本会は数ある校友会の中でも大所帯ですが、先輩方が温かく迎えて下さいました。また、中華街という場所柄もあり、式中に中国獅子舞の踊りが披露されとても華やかな会となりました。本会には若手の集う「NDUクラブ」があり、勉強会や懇親会が行われています。和やかな雰囲気の中、和気藹々と楽しむことができる学びの多い会です。

地元の先生方と交流を深める機会はあまりないので、この貴重な経験を神奈川県出身の学生にも、ぜひ体験してもらいたいと思います。私も学生と先生の架け橋となり、より一層、神奈川県校友会を盛り上げて行ければと思いました。

学生の皆さんをバックにご満悦な久保木監事（53回）、倉治専務（62回）、藤井神奈川県会長（67回）（左から）

診療室での物語

カルテ No.6

雨上がりの夜空に

東京都・倉治歯科医院
倉治　隆（68回）

ホラー小説「死国」で直木賞を受賞した坂東眞砂子さんが本年１月、舌がんで逝去されたことは記憶に新しい。舌がんなど口腔領域に発症する“がん”を総称して口腔がんと呼ぶ。口腔が咀嚼・嚥下、発声、味覚、気道の補助といった機能を担っていることは、学生の皆さんも良くご存知のことだろう。口腔がんを発症すれば、またその完治を目的とする外科手術によっても、これらの機能が損なわれることがある。

喉頭がんだった忌野清志郎さんは、主治医から「声帯とともに“がん”を摘出すると、二度と声が出せなくなります」と宣告される。それは歌手として死刑宣告にも等しく、清志郎さんは外科手術を拒否。放射線・薬物併用療法を選択し、最後は民間療法に頼った。

清志郎さんの名曲「雨上がりの夜空に」の歌詞に、次のような一節がある。“こんな事いつまでも長くは続かない いい加減明日の事考えた方がいい どうしたんだ Hey Hey Baby”…。清志郎さんにとって歌手でなくなる“明日”など、人生の選択肢にはなかったのだろう。

清志郎さんはその３年後に「癌性リンパ管症」で他界。食道がんを発症した桑田佳祐さんが、外科手術を選択して生還したことを考えても、歌手という天職を課せられた二人の、がん発症部位の差に運命の残酷さを感じ、やり切れなさを覚えてしまう。

今から30年前、私も自院にて似たケースに遭遇したことがあった。患者さんは60代の男性Aさん。主訴は右側舌縁の違和感。「なんかザラつくんで診てくださいな…」。舌縁は奇怪な様相を呈し、視診だけでもそれが悪性腫瘍であることが推察された。即座にT大学医学部病院に紹介、病理組織検査の結果、舌がんの診断が下された。いくつかの治療計画が提示されたが、Aさんもまた、その中の選択肢の一つである外科手術を明確に拒否した。Aさんの職業はプロテスタント教会の牧師にして、私立幼稚園の園長先生。お祈りに講話に賛美歌の歌唱、それに園児の指導…。やはり喋ることと歌うことがAさんの天職だった。

放射線・薬物併用療法を選択したAさんが翌日来院、「ベロ取られちゃったら仕事になりませんしね。どうせ、もともとハゲだから周りの連中もわかんないだろうし…。それに先生もなんとかなるだろうって言ってくれましたんでぇ、切らないことにしました」と報告してくれた。

延命よりも天職を選んだ自負と誇りをおくびにも出さず、笑い話で紛らわせたAさんの顔が輝いて見えた。清志郎さんの追悼番組が組まれるたびに、私は今だにこの時のAさんの誇らしい顔を思い出す。清志郎さんもAさんも胸に秘めた想いは同じだったはずだ。一ヶ月後、Aさんが再び来院した。お口の中を拝見すると、放射線療法の副作用により患部周辺の歯肉が大きく退縮し、歯槽骨が露出している。見るからに痛そうだ。「醤油やソースがホネに滲みちゃってね、食事が辛いんですわ」。相変わらずの飄々とした話しっぷりには、悪性腫瘍の死の恐怖など微塵も感じさせない。“すべて神の思し召し…”。これが聖職者の強みなのだろうと私は思った。因みにAさんは、再発・転移をすることもなく、90歳近い天寿を全うされ天に召された。“雨上がりの夜空”からきっと見守ってくれていることだろう。

この年の前後３年間だけで、私は５症例の口腔がんを発見することができた。口腔がんの発生率からすれば異例なことだ。確率的に今後二度と悪性腫瘍に遭遇することはないはずだが、一次医療機関である町医者としての責任は果たせたのかもしれない。

今、日本では年間約７千人が口腔がんに罹患し、３千人を超える人が命を落としていく。10年後には１万２千人以上が口腔がんになると推計されている。学生諸君も国家試験合格後には、“口腔がん”との戦いの幕が切って落とされることだろう。われわれもAさんや清志郎さんのように“天職”を全うすべく、歯科医として同じ校友会の仲間として、“バッテリーはビンビンだぜ いつものようにキメてブッ飛ばそうぜぇ～”…。

ともに頑張ってやって行きましょう!!

校友の　歴史の重さ　手渡して　頼むぞ後輩　母校の未来　伝統を　守ってゆきます　我々も　富士見・浜浦　熱き心で

KOYU Times　2014 July | no.6
2014年7月1日発行　発行人：近藤勝洪　編集人：倉治　隆
発行：日本歯科大学校友会　日本歯科大学生命歯学部100周年記念館2F　TEL.03-3261-8971　FAX.03-3264-8745
URL　http://www.koyu-ndu.gr.jp/